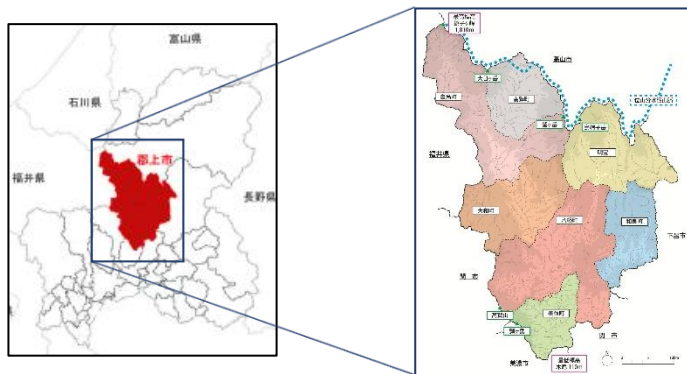


郡上市文化財保存活用地域計画（概要版）

(R8.12.20・郡上市)

【計画期間】 令和8～12年度（5年間）
 【面積】 1030.75km²
 【人口】 約3.8万人
 【関連制度】 歴史的風致維持向上計画（R5年度）



指定等文化財件数一覧

類型		国指定等	国選択	県指定	市指定	国登録	合計
有形文化財	建造物	0	-	2	24	26	52
	美術						
	絵画	0	-	24	62	0	86
	彫刻	5	-	11	176	0	192
	工芸品	7	-	13	80	0	100
	書跡・典籍	2	-	7	107	0	116
	古文書	1	-	2	28	0	31
	考古資料	0	-	3	39	0	42
無形文化財	歴史資料	0	-	1	42	0	43
		0	0	0	2	0	2
民俗文化財	有形の民俗文化財	2	-	7	57	0	66
	無形の民俗文化財	4	(4)	5	16	0	25
記念物	遺跡	1	-	3	61	0	65
	名勝地	1	-	1	9	0	11
	動物・植物・地質鉱物	5	-	21	61	0	87
文化的景観		0	-	-	-	-	0
伝統的建造物群		1(※1)	-	-	-	-	1
合計		29	(4)	100	764	26	919

指定等文化財は919件、未指定文化財は1,822件把握

推進体制

行政 (市)	社会教育課、地域振興事務所、 郡上市歴史資料館、郡上市文化 財保護審議会 等	市民	寺院、神社、奉賛会 文化財所有者
行政 (県)	県文化伝承課、岐阜県博物館、 岐阜県文化財保護センター 等	団体	各地域文化財保護協会 各地域観光協会 郡上おどり保存会 岸劔神社大神楽奉賛会 寒水掛踊保存会 ほか100団体以上
教育 研究	市内小学校、市内中学校 市内高等学校、大学 森林文化アカデミー 等		

歴史文化の特性

① 人の輪で 伝統を繋ぐ 民俗芸能

郡上市にはユネスコ無形文化遺産の「風流踊」をはじめ、さまざまな民俗芸能が伝承されている。白鳥の拝殿踊、長滝の延年、七日祭、地歌舞伎など、市域に根付いた多様な民俗芸能は、住民の結束と文化を象徴している。



郡上踊

② 古代より続く 霊峰への祈り

白山への信仰は古代より「美濃馬場」白山中宮長瀧寺を拠点に広まった。白山だけでなく、市内の大日ヶ岳や高賀山なども信仰の対象であった。郡上の人々は山々を自然の象徴として崇め、自然と共生しながら文化を形成している。



若宮家住宅

③ 清流が結ぶ 人の縁と交流

長良川をはじめとする数々の清流は市域を潤し、遥か日本海へ、太平洋へと流れ、古来、人とモノの往来を促した。美しい河川が結んできた交流が人の縁を紡ぎ出し、郡上市特有の歴史文化を育んできた。



石徹白のスギ

将来像 自然と歴史が調和する文化のまち郡上

方向性	課 題（一例）	方 針（一例）	取組（一例）
郡上市の歴史文化を「伝える」 方向性1	■地域の歴史文化を後世に伝えるための持続可能な文化財の保存と継承に係る課題 ○歴史文化の調査・研究につながる多くの歴史資料をデジタル化し、公開する必要がある。	○特色ある歴史文化に関連する文化財を保存・継承するために、文化財のデジタルアーカイブ化を進め、広く公開する。	1-1② 歴史資料のデジタル化によるアーカイブの整備と公開 郡上市歴史資料館において歴史資料（写真・映像を含む）の調査研究とデジタル化を行うとともに、デジタルデータを公開するオンラインアーカイブを整備する。 ■行政、教育・研究 ■R8～12
郡上市の歴史文化を「調べる」 方向性2	■郡上市を特徴づける歴史文化の調査・研究に係る課題 ○市内遺跡の分布調査や、天然記念物の樹木等について、生息状況の把握ができていない。	○調査の進んでいない市内遺跡の分布調査とそれに係る遺跡地図の公開、天然記念物の樹木等の現況の生息状況調査を進める。	2-1② 市内遺跡の詳細分布調査の実施と遺跡地図の公開 市内の遺跡地図に明記されている遺跡のほか、未確認の遺跡について詳細分布調査を行い、新たな遺跡地図を作成して広く公開する。■行政 ■R10～12 2-1③ 天然記念物（樹木等）の現況調査の実施 天然記念物の樹木等について、現在の生育状況などを確認する。■市民、行政、団体、教育・研究 ■R8～12
郡上市の歴史文化を支える人材を「育てる」 方向性3	■ふるさとの文化財を支える人材育成に係る課題 ○児童・生徒が地域の歴史文化に関心を持つために「郡上かるた大会」の継続が必要	○歴史文化に関心を持つことや、文化財保護意識の向上のため、郡上かるたを活用した「郡上かるた大会」を開催する。	3-1① 郡上を学ぶ郡上かるたを活用した「郡上かるた大会」の開催 郡上の歴史や文化を、市民が手軽に学び楽しめる「郡上かるた大会」を開催し、幅広い年齢層の参加を図る。 ■市民、行政 ■R8～12
郡上市の歴史文化を「活かす」 方向性4	■地域振興や観光資源としての文化財の活用に係る課題 ○文化財関連施設等の展示の見直しや企画展を実施する必要がある。	○地域の歴史を伝える文化財関連施設等の魅力向上のための展示内容の見直しや、話題性を高める企画展を実施する。	4-1① 博物館、資料館等の魅力向上のための展示内容の見直しや話題性を高める企画展の実施 博物館等は市民等の学習に繋がる施設として、学芸員による展示内容の調査・研究を進め、展示の見直しや話題性を高める企画展を実施する。■行政、教育・研究 ■R9～10

七つの関連文化財群

【八幡地域】郡上八幡城を望む、水の城下町

八幡地域は城下町として整備されてから現代まで、郡上の政治と経済の中心であり、人や物が集まる要所として栄え、様々な文化を生み出してきた。中心部の町筋は、城下町の整備が行われたかつての面影を残しており、郡上八幡城はランドマークとして城下町を見守っている。また、町中に張り巡らされた用水は、様々な水源から水を引き込み潤し、夏は伝統行事の郡上踊が町並みに活気をもたらしている。自然と文化が調和した、まさに「水の城下町」といえる。



八幡城跡

【大和地域】東氏のこころを受け継ぐ、古今伝授の里

大和地域は郡上東氏ゆかりの地であり、宗祇への「古今伝授」を行った東常縁をはじめ、勅撰歌人を多く出した、武家歌人の家系として知られている。その東氏の雅な暮らしを現代にも伝える重要な遺構である東氏館跡と篠脇城跡などが多数所在する。教育の場では東氏ゆかりの短歌教育が活発であり、古今伝授の里として東氏のこころを受け継いでいる。



七日祭

【白鳥地域】霊峰に抱かれた、白山文化の栄華

白鳥地域は古代から白山信仰の中心地であり、「山に千人、麓に千人」や「上り千人、下り千人」といわれるほど参拝者が訪れ、現在も長滝白山神社や白山中居神社などが白山文化を伝える宗教都市として、白山参詣の道「美濃禪定道」の様相を伝え、その周辺には信仰の対象である仏像、巨樹などとともに崇拝者からの寄進物などが残され、これら白山信仰に係る文化財が往時の栄華を今に伝えている。また、長滝の延年や白鳥の拝殿踊などで白山連峰からの水の恵みに感謝する舞や踊りの町といえる。



長滝の延年

【高鷲地域】鷲見氏の歴史と開拓にみる先人の足跡

鷲見郷と呼ばれた高鷲地域は、中世には鷲見氏の支配となり、鷲見氏館跡、鷲見城跡など鷲見氏ゆかりの遺構が点在し、その歴史を今に伝えている。昭和15年（1940）から始まった、ひるがの高原などの開拓は、戦後に満州開拓引揚者や復員兵らが加わり、その範囲と規模が拡大していった。これらの開拓地を含め、高原地帯の気候を活かした日本一の大根づくり、酪農、西日本最大級のスキー場など雪を活かしたウィンターリゾートという、いわゆる「三白産業」が高鷲の魅力を象徴し、美しく厳しい自然の中で開拓の拓く力が息づく里である。



蛭ヶ野高層湿原植物群落

【美並地域】山河に生き、祈る 高賀山信仰と円空の里

古代より瓢ヶ岳山麓では高賀山信仰が盛んで、神々が住まう山々として古代から信仰を集め、高賀六社のひとつである星宮神社（粥川寺）は特にその対象である。江戸時代の仏師円空は粥川寺で出家したとされ、全国遊行のなか幾度となく美並に戻っており、現在も多数の円空仏が残り、心を癒してくれる。また、木地師、炭焼き、木挽など山中の生活、筏流しや鮎漁など長良川や粥川が育む豊かな自然の生業を再現展示した「美並ふるさと館」があり、往時の人々の営みを今日に伝えている。



星宮神社の木造武將坐像 円空作

【明宝地域】「奥美濃よもやま話」が伝える山村の暮らしと人生儀礼

ユネスコ無形文化遺産に登録された「寒水の掛踊」が伝わり、特色ある山村文化が育まれている。縄文時代から現代まで連綿と続いてきた山村の人々の暮らしの様子を今に伝える民俗資料が明宝歴史民俗資料館に収蔵されている。そこでは民俗事例を聞き取りし取りまとめた「奥美濃よもやま話」を中心とした学習会が継続的に開かれ、先人の足跡を後世に伝えている。



旧明宝小学校校舎・講堂

【和良地域】清流が「はざこ」を育む、自然と歴史の里

和良川の清流が地域の中心を流れ、ブランド鮎として名高い「和良鮎」を産し、全国的にも珍しいオオサンショウオ生息地として地域全体が指定される自然豊かな地域である。また、戸隠神社の重ね岩や鬼の首など伝説や伝承にまつわる歴史遺産が多く残る。戸隠神社の祭礼である九頭の祭は伊勢神楽などの神事だけでなく、ヤマ（曳山）を曳き、からくりを奉納することで、自然への感謝を伝え、住民がこの美しい自然を今日まで残してきた。

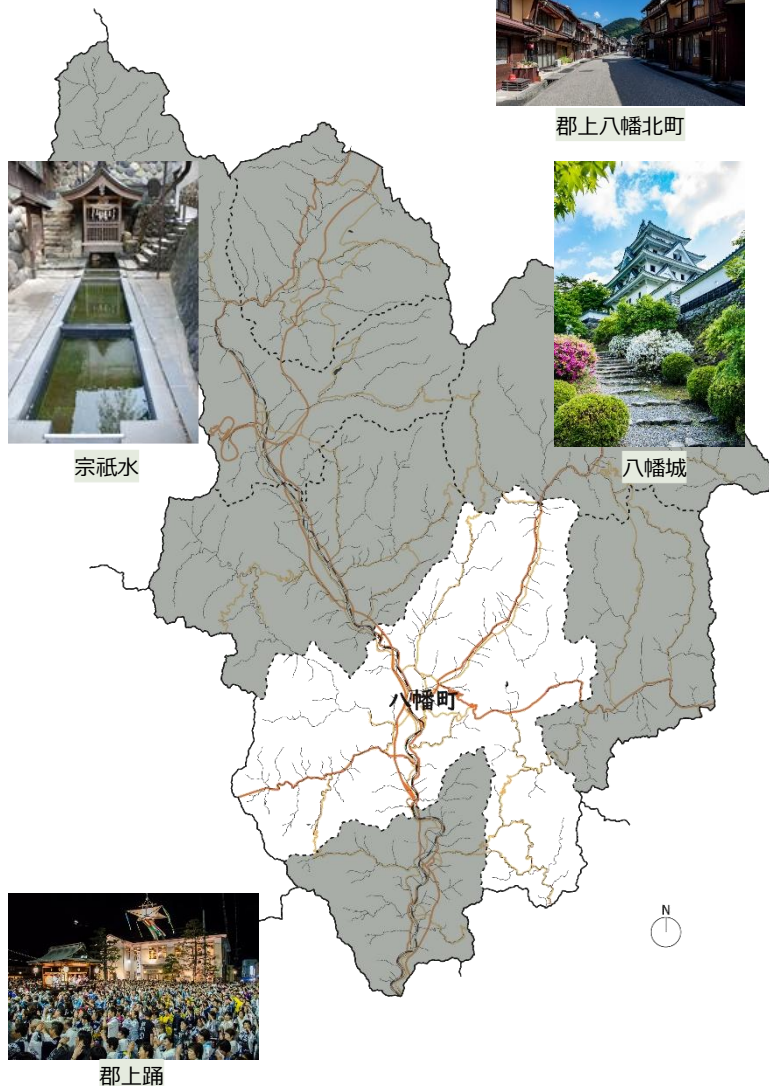


オオサンショウウオ生息地

【関連文化財群】 【八幡地域】 郡上八幡城を望む、水の城下町

▼ **概要** 水が住民の生活に密着した八幡地域は、かつての城下町整備の面影を中心部の町筋などで残している。政治と経済の要所として様々な文化が息づいており、現代でも活気を生み出している民俗芸能は、ここにしかない大きな魅力の一つである。

▼ 構成文化財



▼ 関連文化財群に関する課題（一例）

- ・ 伝建地区の選定から10年以上が経過し、住民の町並みへの意識の変化や、防災計画が現状に即していないことなど町並みへの影響が懸念される。
- ・ 伝建地区の建物が劣化し、景観が損なわれている。
- ・ 郡上八幡城の石垣は、経年劣化により破損及び孕み出しが生じ、保存が危ぶまれる。

▼ 関連文化財群に関する方針（一例）

- ・ 伝建地区の町並みを維持するための住民との協議や、現状に即した防災計画への検討と研究を進める。
- ・ 伝建地区で建物の修理や修景の実施を継続する。
- ・ 郡上八幡城の石垣を保存するための調査やその方針の検討を進める。

▼ 関連文化財群に関する取組（一例）

関1-1 伝建地区の町並みを維持するための住民との協議及び防災計画の検討と研究

重要伝統的建造物群に選定された郡上八幡北町の住民と協議し、現状に即した形での町並み保存や防災計画の検討と研究を行う。

■ 市民、行政、教育・研究 ■ R8～9

関1-2 伝建地区での修理・修景の実施

重要伝統的建造物群に選定された郡上八幡北町の町並みを守るための修理・修景事業を継続的に実施する。

■ 市民、行政、教育・研究 ■ R8～12

関1-3 郡上八幡城石垣保存のための調査及び保存方針の検討

「八幡城保存活用計画書」に基づき、継続的な現状把握のため3次元レーザー測量及び写真測量を行い、石垣の現況を記録し、将来的な石垣修理の基礎データを作成する。

■ 行政 ■ R8～9

【関連文化財群】 【大和地域】 東氏のこころを受け継ぐ、古今伝授の里

■ **概要** 郡上東氏は、宗祇に「古今伝授」を行った武家歌人の家系であり、鎌倉時代から山田庄を支配した。その重要な遺構として東氏館跡や篠脇城跡などが所在する。地域では現在も東氏ゆかりの和歌文化にちなんだ地域づくりがされている。

■ 構成文化財



■ 関連文化財群に関する課題

- ・「東氏館跡及び篠脇城跡」の整備や保存に関する方針が決められていない。
- ・東氏ゆかりの貴重な山城の調査がされておらず現状も分かっていない。
- ・東氏ゆかりの遺産の観光活用がされていない。

■ 関連文化財群に関する方針

- ・「東氏館跡及び篠脇城跡」の保存活用計画の作成を進める。
- ・東氏ゆかりの山城（阿千葉城、木越城、神路城）の調査と研究を進める。
- ・東氏ゆかりの遺産（遺構、名勝、和歌、短歌など）を観光資源として活用した文化ツーリズムを展開する。

■ 関連文化財群に関する取組

関2-1 東氏館跡及び篠脇城跡の保存活用計画の作成

東氏館跡及び篠脇城跡の今後の保存と活用を組織的に取り組むため、保存や整備に関する将来的な方針を検討する委員会の設置と、あわせて作成に必要な調査を行う。 ■行政、教育・研究 ■R8～10

関2-2 東氏ゆかりの山城（阿千葉城、木越城、神路城）の現状調査

教育委員会と専門家による現況調査を行い、地形や遺跡表層部、地中部分の把握調査を実施し、新たな縄張り図を作成する。

■行政、教育・研究 ■R8～12

関2-3 東氏ゆかりの歴史的遺産を活用した文化ツーリズムの展開

和歌・短歌をはじめとする東氏ゆかりの歴史的遺産を活用した文化ツーリズムを展開するための研究と実証を進める。

■市民、行政、団体 ■R8～12

【関連文化財群】 【白鳥地域】 霊峰に抱かれた、白山文化の栄華

▼ **概要** 古代から白山信仰の中心地であり、「美濃馬場」といわれた白山中宮長瀧寺や、長滝白山神社、白山中居神社、白山への登拝道を中心に、白山信仰に係る自然遺産、文化遺産が今に伝わる。また、独自の民俗芸能も地域の各所で行われている。

▼ 構成文化財



▼ 関連文化財群に関する課題（一例）

- ・長瀧の延年等の白鳥地域独自の民俗芸能の継承が途絶える危険性がある。
- ・白山信仰の拠点である白鳥町北部地域の文化財の情報がうまく発信されていない。
- ・市内唯一の県重要文化財である「若宮家住宅」の状態が悪く活用もできていない。

▼ 関連文化財群に関する方針（一例）

- ・長瀧の延年等の民俗芸能を継承するための財政的な支援や学習会を開催する。
- ・白鳥町北部地域（長瀧、前谷、石徹白）の文化財を情報発信するための調査・研究を行う。
- ・県重要文化財「若宮家住宅」の保存と観光資源としての活用の推進を行う。

▼ 関連文化財群に関する取組（一例）

関3-1 長瀧の延年等の民俗芸能の継承支援

長瀧の延年の魅力と認識を高め、後世に伝えることを目的に有識者による学習会を開催し、より一層の周知を図るとともに財政的な支援を行う。

■市民、行政、教育・研究 ■R9～10

関3-2 白鳥町北部地域（長瀧、前谷、石徹白）の歴史資源を活用した情報発信の研究

白山信仰の拠点である白鳥町北部地域の歴史資源を情報発信する「くくるをめぐる」の活用について、より一層の情報発信を進めるため調査研究を行う。

■行政 ■R10

関3-4 若宮家住宅等の保存と地域に根差した活用の推進

若宮家住宅及び周辺環境について、若宮家住宅の文化財としての保存修理を進めつつ、周辺施設の環境整備や活用を推進し、観光資源としての価値を高める。

■市民、行政 ■R10～11

【関連文化財群】 【高鷲地域】 鷲見氏の歴史と開拓にみる先人の足跡

■ **概要** 高鷲地域は850年頃に「鷲見郷」と称され、中世は鷲見氏の支配下であり、関連遺構が残っている。昭和15年（1940）に始まった開拓が戦後に拡大し、高原の気候を活かした大根づくりや酪農、スキー場などの「三白産業」が高鷲の魅力を形作っている。

■ 構成文化財



蛭ヶ野高層湿原植物群落

鷲見城跡

■ 関連文化財群に関する課題（一例）

- ・ 蛭ヶ野高層湿原植物群落に外来種が入り込み、在来種の生育の妨げになっている。
- ・ 高鷲地域の歴史に深く関係のある鷲見城跡等の遺跡の調査がされていない。
- ・ 国内では珍しい、開拓の歴史を伝える、たかす開拓記念館の活用が十分にできておらず、歴史の継承も危ぶまれる。

■ 関連文化財群に関する方針（一例）

- ・ 市民と協働した蛭ヶ野高層湿原植物群落の外来種の駆除を中心とした保全活動を推進する。
- ・ 鷲見城跡等の遺跡の現況調査を行う。
- ・ たかす開拓記念館の利活用の促進や、開拓の歴史を伝える担い手の確保を図る。

■ 関連文化財群に関する取組（一例）

関4-1 市民と協働した蛭ヶ野高層湿原植物群落の保全活動の推進

有識者等による学習会を開催し、湿原の価値や課題について指導を受ける。地域住民と協働しながら湿原の乾燥化対策や外来種の駆除を実施し、植物群落の保全活動を進める。

■ 市民、行政、団体、教育・研究 ■ R8～12

関4-2 鷲見城跡等の遺跡調査

教育委員会と専門家による現況調査を行い、地形や遺跡表層部、地中部分の把握調査を実施し、新たな縄張り図を作成する。

■ 行政、教育・研究 ■ R8～9

関4-4 たかす開拓記念館の利活用の促進と担い手の育成

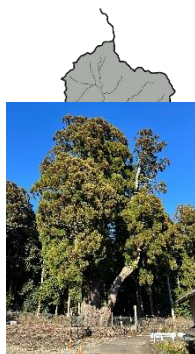
郡上市内の文化施設と連携したSNS版「郡上まるごとミュージアム」等による情報発信や、開拓の歴史を伝える担い手を育成するための学習会を開催する。

■ 市民、行政、教育・研究 ■ R10～12

【関連文化財群】 【美並地域】 山河に生き、祈る 高賀山信仰と円空の里

■ **概要** 美並地域の瓢ヶ岳山麓では高賀山信仰が盛んで、高賀六社の一つである星宮神社は古代から信仰を集めた。江戸時代の仏師円空は粥川寺で出家したとされ、「円空のふるさと」として知られ、円空仏が多く残る。

■ 構成文化財



神ノ御杖スギ



星宮神社の社叢林



子安神社阿彌陀如来
釈迦如来 円空作



星宮神社の
木造武将坐像 円空作



■ 関連文化財群に関する課題（一例）

- ・ 日本林業遺産に登録された星宮神社の社叢林や、昔からの林業技術の情報発信がされておらず、継承がされていない。
- ・ 地域の歴史や円空の魅力を伝える美並ふるさと館の情報発信ができておらず、活用されていない。
- ・ 知名度の高い円空仏の活用と情報発信ができていない。

■ 関連文化財群に関する方針（一例）

- ・ 社叢林や林業技術の魅力を伝える日本林業遺産の情報発信や林業技術の継承するための講座を開催する。
- ・ 地域生活文化と円空の魅力を伝える美並ふるさと館の活用と情報発信の方法を検討する。
- ・ 県内の市町と連携した円空連合の活動を通して円空仏の活用と情報発信を行う。

■ 関連文化財群に関する取組（一例）

関5-1 日本林業遺産の情報発信と林業技術の継承

星宮神社の社叢林等が該当する、日本林業遺産「郡上林業の歴史と技術を伝承する資料・展示と社叢林」を活用したSDGsに繋がる自然環境講座等をぎふ木遊館サテライト施設と連携し開催する。

■ 市民、行政、団体、教育・研究 ■ R8～12

関5-3 粥川の森と円空を伝える美並ふるさと館の活用と情報発信

美並ふるさと館については、地域生活文化と円空の魅力を伝える施設として、地域住民と共に今後の美並ふるさと館の展示活用や情報発信について検討を行う。

■ 市民、行政 ■ R11～12

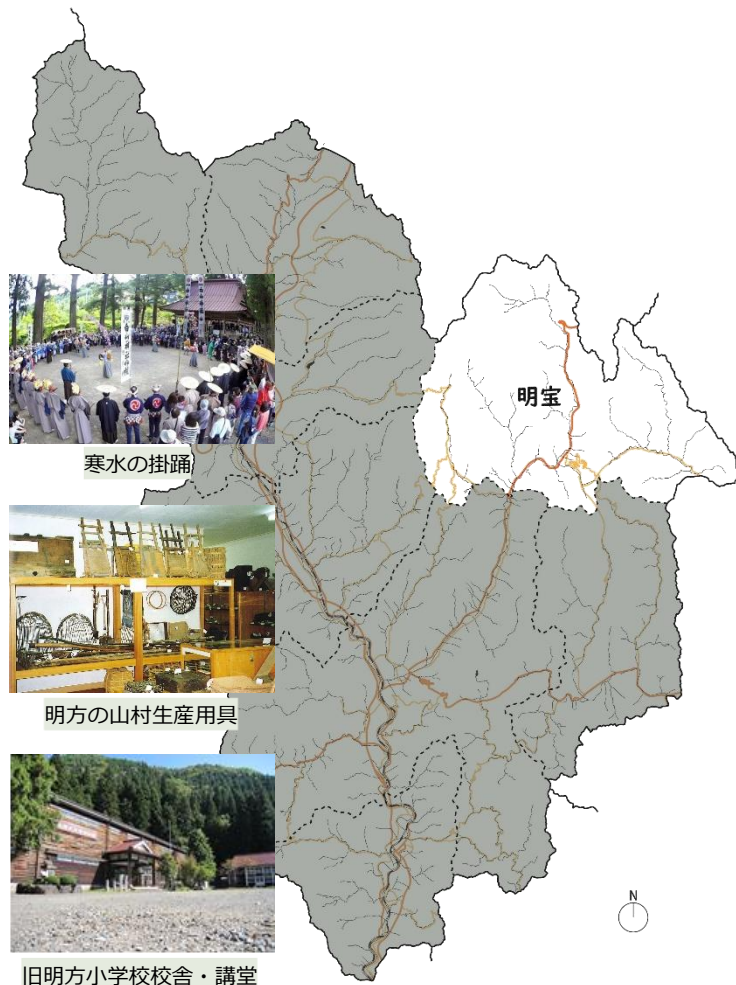
関5-4 県内の市町と連携する円空連合の活動への参画

郡上市は円空連合に参加し、県内の他の市町と情報共有を行いながら、円空仏の活用と情報発信を進めている。今後も積極的に連携を図りながら、県内外に情報発信を行う。 ■ 行政 ■ R8～12

【関連文化財群】 【明宝地域】 「奥美濃よもやま話」が伝える山村の暮らしと人生儀礼

■ **概要** 明宝地域ではユネスコ無形文化遺産の「寒水の掛踊」や民俗資料「明方の山村生産用具」に象徴される山村文化が育まれた。昭和40年代以降、地元有志の学習会が聞き書き集「奥美濃よもやま話」を基に行われ、山村の暮らしと人生儀礼が継承されている。

■ 構成文化財



寒水の掛踊

明方の山村生産用具

旧明方小学校校舎・講堂

■ 関連文化財群に関する課題

- ・「寒水の掛踊」は、高齢化などによる体制の変化で開催に苦慮している。
- ・地域の歴史を伝える「奥美濃よもやま話」は学術的にも価値のあるものだが、情報発信や調査がうまくできていない。
- ・明宝歴史民俗資料館にある「明方の山村生産用具」や「奥美濃の人生儀礼用具」の活用や保管方法の検討がされていない。

■ 関連文化財群に関する方針

- ・国重要無形民俗文化財「寒水の掛踊」の持続的な開催と継承の支援を行う。
- ・「奥美濃よもやま話」の情報発信や、研究機関と連携し研究を行う。
- ・「明方の山村生産用具」と「奥美濃の人生儀礼用具」についての今後の活用や保管について研究を行う。

■ 関連文化財群に関する取組

関6-1 国重要無形民俗文化財「寒水の掛踊」の持続可能な継承の支援

ユネスコ無形文化遺産である寒水の掛踊の持続可能な開催を支援する。

■ 市民、団体、教育・研究 ■ R8～12

関6-2 地域からの「奥美濃よもやま話」の情報発信と研究

地域の方言や知識などを地域のみならず市内外の若い世代への伝承を進める。また、大学など研究機関と連携し、地域と協働した研究を支援する。

■ 市民、教育・研究 ■ R8～12

関6-3 国重要有形民俗文化財「明方の山村生産用具」「奥美濃の人生儀礼用具」の保存施設の検討

昭和初期の木造校舎を活用した資料館に保存していることから、老朽化や耐震性の観点から、今後2件の国重要有形民俗文化財の保存や活用について検討する。

■ 市民、行政、教育・研究 ■ R11～12

【関連文化財群】 【和良地域】 清流が「はざこ」を育む、自然と歴史の里

▼ **概要** 和良地域は和良川の清流に、全国的に有名な「和良鮎」や「はざこ」(オオサンショウウオ)を育む自然豊かな町である。特に、九頭の祭は市内唯一の神事とからくり奉納を伴う祭礼で、伝説にまつわる歴史遺産も多く存在している。

▼ 構成文化財



▼ 関連文化財群に関する課題

- ・各々にオオサンショウウオの愛護活動や調査等を行う団体があるが、地域全体として取り組む体制が不十分である。
- ・地域の歴史に関わる陣屋敷跡等の遺跡の調査がされていない。
- ・オオサンショウウオや鮎など地域の特色ある水生生物の魅力がうまく発信できていない。

▼ 関連文化財群に関する方針

- ・市民と協働したオオサンショウウオの保護団体を創設し、調査や研究などの活動を支援する。
- ・陣屋敷跡等の遺跡の調査を行う。
- ・知名度の高いオオサンショウウオや和良鮎の情報発信のため、和良歴史資料館での企画展を行う。

▼ 関連文化財群に関する取組

関7-1 オオサンショウウオ保護団体への支援

オオサンショウウオの適切な保護を継続的に実施するため、和良町の地域全体で取り組むオオサンショウウオの保護団体の活動を支援する。

■市民、行政、教育・研究 ■R10

関7-2 陣屋敷跡等の現況調査

和良遠藤家や幕府直轄地時代の歴史について、文化財保護協会と協働して史料及び遺跡調査を行い、その歴史的価値を評価し、発信する。

■行政、団体、教育・研究 ■R10～12

関7-3 和良歴史資料館でのオオサンショウウオや鮎などの水生生物の企画展の実施

オオサンショウウオや鮎などの水生生物をテーマに、教育機関と連携した企画展示を開催し、和良川とそこに棲むオオサンショウウオなどの魅力を発信する。

■市民、行政、教育・研究 ■R10